

# 言語活動の充実に関する実践事例

学校名 (安芸高田市立可愛小学校)

- ① 教科等 算数科    ② 学年 第2学年
- ③ 単元名 ひき算のひっ算
- ④ 本時の目標 2位数の減法の筆算の仕方について理解し、確実にできるようにするとともに、それを用いる能力を伸ばし、減法についての理解を深める。
- ⑤ 学習の流れ (1時間目/全8時間)

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 問題を知り、学習課題を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年時の既習計算をフラッシュカードで答えさせた後、<math>38 - 12</math>を提示する。</li> <li>・既習の計算 (<math>13 - 8</math>, <math>50 - 20</math>, <math>17 - 3 \dots</math>) との違いを考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2位数の減法計算の仕方を、数え棒や図、式などを用いて考えている。 〔数学的な考え方〕 (ノートへの記述)</li> <li>・集団解決で出された考え方を用いて問題を解いている。 〔数学的な考え方〕 (発言・ノート)</li> </ul>
$38 - 12$ のけいさんのしかたを考えよう。		
2 計算の仕方を考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>㊦ 位に関係なく38個の図をかき、12個消して残りを数える。</li> <li>㊧ 先に一の位からひけるだけひき、残りを十の位からひく。</li> <li>㊨ 12を10と2に分ける。先に全体から10をひいて28、さらに残りの2をひく。</li> <li>㊩ 十の位、一の位からそれぞれひく。(図)</li> <li>㊪ 38を30と8に分けて、12を10と2に分ける。十の位どうし、一の位どうしをひく。それぞれ求めた20と6をたす。(計算)</li> </ul>		
3 考えを交流する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に数え棒を操作しながら考え、操作を終えたら、どのように解決したのかを、ノートに図や言葉で書いて説明することを促す。</li> <li>・友だちの発表を聞くときには、自分の考えと比べながら聞くように促す。</li> <li>・児童の活動頻度を高めるために、ペアで説明させるなどの活動を仕組む。</li> <li>・それぞれの説明の共通点、相違点に着目させる。</li> </ul>	
4 まとめをして、適用題に取り組む。		
5 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習課題に即した振り返りをさせる。</li> </ul>	

〔言語活動の充実〕

設定した言語活動を通して育てたい力

- 位に着目して計算の仕方を考え、その思考の過程や結果を、算数の用語を使って、筋道を立てて表現したり説明したりすることができる。

言語活動の充実のための指導の工夫

- 予想される児童の反応を具体的に想定し、集団解決場面の充実を図る。
  - ・多様な考えを分析し、どのように発表させたいか、どのように学び合いの場を構築するか、指導者が事前にイメージを持っておく。
  - ・自力解決場面で、指導者が評価補助簿を活用しながら児童の考えを適切に見取る。
  - ・どのようにして答えを導いたのか、自分の考えを図を指し示しながら説明させる。
  - ・児童の発表を、図、言葉、式等と関連付けられるように支援を行う。
- 繰り返し説明する活動を取り入れる。
  - ・繰り返し話したり聞いたりできるように、ペア学習を取り入れる。
  - ・計算の仕方をまとめ定着を図る場面においても、適宜説明場面を取り入れ、計算の意味理解を深める。